

12. 令和2年度 長野県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

信州大学医学部附属病院小児科・てんかん診療部門 福山哲広

1. 概要

令和2年10月1日に信州大学医学部附属病院が長野県てんかん診療拠点機関に指定され、理念を「てんかんに負けない地域を作る」として活動を開始した。開設時スタッフはてんかん専門医（小児科医）1名、脳神経外科医1名、小児科医1名、脳神経内科医1名、てんかん診療コーディネーター1名（看護師）である。

信州大学医学部附属病院はてんかん診療拠点機関としての体制は整備されているものの、てんかん外科手術やてんかん患者への包括的な支援体制は不十分である。そのため敢えててんかんセンターを名乗らず、「てんかん診療部門」としている。将来的にてんかんセンターを名乗れる様に体制整備を進めていくことを目標としている。令和3年2月1日には専用のホームページを公開して積極的な情報配信を開始した。

2. てんかん診療実績

- ・週に2回のてんかん専門外来を行っている。令和2年度は院内関連各科からの診療依頼も含めて、約90例/年の新患患者を受けている。長野県内の医療機関からの紹介が大多数であるが、他県のてんかんセンターに長年通院されていた患者さんの紹介も目立つ。

- ・長時間ビデオ脳波件数は年間50例に達している。

- ・てんかん症例検討会を月に1回行っている。参加者は小児科医、脳神経外科医、精神科医、脳神経内科医に加えて、放射線科医、遺伝科医、生理検査技師、心理士、言語療法士、作業療法士である。令和2年6月から前静岡てんかん・神経医療センター院長の井上有史先生にご参加いただき、症例検討におけるアドバイスおよびてんかんレクチャーを受けている。

- ・令和2年度の当院でのてんかん外科手術症例は1例（焦点切除術）で、連携機関である長野県立こども病院では2例（迷走神経刺激装置埋め込み術および装置入れ替え術）行われた。それ以外に把握できている長野県在住患者さんのてんかん外科手術症例は、静岡てんかん・神経医療センター3例（全例焦点切除術）、渋川医療センター2例（焦点切除術、迷走神経刺激装置埋め込み術）、聖隷浜松病院1例（焦点切除術）であった。

- ・相談業務件数はまだ少ないが、就労支援や入所施設でのてんかん発作時対応についての相談を受けている。

- ・

3. 啓蒙活動

- ・令和2年10月13日に福山が長野県警察学校にて「てんかんと自動車運転免許について」の講演を行った。

・信州大学教員免許更新支援センターの教員免許状更新講習として「てんかんの正しい知識」を11月16日から12月6日の期間にオンデマンド配信を行った。

・令和3年6月にてんかん協会長野県支部との共催で、てんかん県民講座を開催することが決定し、現在準備を進めている。

4. 長野県てんかん治療医療連携協議会（てんかん医療提供体制検討会議）

令和3年1月27日にWeb会議にて長野県てんかん治療医療連携協議会を開催した。てんかん診療拠点機関の選定について、令和2年度の活動報告、評価指標の設定について、拠点機関ホームページの開設について報告をした。また今後の課題として、てんかん専門医の増加（てんかん専門医養成支援事業）、就労相談の充実（企業やハローワーク職員への研修）、自動車運転に関する啓蒙活動、ピアカウンセリング体制の構築、学校教職員向けのマニュアル作成について話し合った。

● 構成員

氏名	区分	所属
福山哲広	医療	信州大学医学部新生児学・療育学講座
佐藤俊一	医療	長野赤十字病院脳神経内科
荻原朋美	医療	信州大学医学部精神科
金谷康平	医療	信州大学医学部脳神経外科
小泉典章	行政	長野県精神保健福祉センター
永原正裕	当事者	日本てんかん協会長野県支部
大久保千鶴	家族	長野県養護学校PTA連合会 顧問

● 事務局

氏名	所属
北原理恵	信州大学医学部附属病院 てんかん支援コーディネーター
兒玉 理	健康福祉部医師・看護人材確保対策課
亀井智泉	健康福祉部障がい者支援課・医ケア児等スーパーバイザー
宮澤一江	産業労働部労働雇用課 主事
傳田浩章	教育委員会事務局特別支援教育課
村岡進一	警察本部東北信運転免許課
西垣明子	健康福祉部保健・疾病対策課 課長
小澤利彦	健康福祉部保健・疾病対策課 心の健康支援係
伊藤溪亮	健康福祉部保健・疾病対策課 がん・疾病対策課
大峽康裕	健康福祉部保健・疾病対策課 心の健康支援係